

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	村田 節子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 21 年より当大学に就任。主な研究分野はがん患者の身体的ケアや社会復帰に関する研究で、特にがん患者のスキンケア、排泄と排泄環境に関する研究を行っている。又、ケア技術選択の根拠となる看護アセスメント過程に関心を持ち、看護過程・看護診断に関する研究を行っている。

ケアは、単に身体機能の回復を助けるだけでなく、患者という立場になった人々の生活の再構築を支援していく役割がある。そのためには、国や地域の慣習や伝統を考慮する必要がある。今後は「排泄環境」を通して、アジアの看護についても検討していきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・村田節子「皮膚症状・ストーマ(P243-247)」、根拠がわかるがん看護ベストプラクティス 第IV章 各論 がん患者へのケアとエビデンス、がん看護 第17巻第2号、南江堂、2012.
- ・村田節子「皮膚症状・皮疹(P248-252)」、根拠がわかるがん看護ベストプラクティス 第IV章 各論 がん患者へのケアとエビデンス、がん看護 第17巻第2号、南江堂、2012.
- ・村田節子「看護診断と看護の専門性・独自性 現状と今後の課題(担当部分単独執筆)」p31-40)、『季刊ナースアイ、vol.23 NO.3 通巻198号』、桐書房、2010.
- ・村田節子「女性生殖器疾患 1. 病状と病態生理、2. 検査、疾患の理解と看護(担当部分単独執筆)p221-247)」、『BASIC NURSING』、メディカルレビュー社、2010.
- ・村田節子「終末期にある患者のストーマケア (担当部分単独執筆) p759-763)」、『がん看護11.12、Vol.14,NO7,特集：がん終末期における創傷・スキントラブルとケア』、南江堂、2009.

<論文>

村田節子、灰谷香奈子、高橋朋子、加藤篤、「イエメン共和国の排泄習慣および排泄環境の特徴と現状」、関西看護医療大学紀要、2010、3月。

②その他最近の業績

<調査報告>

- ・村田節子 「婦人科がんの化学療法によるスキンダメージとQOLに関する研究」、癌研究奨学金「安田記念財団 癌研究助成成果報告集7」財団法人 安田記念財団発行 2009.
- ・村田節子、灰谷香奈子 「トイレで社会が見える(12) 水を巡る旅」、記事「建築コスト情報2009. 1. 」財団法人 建築物価調査会発行.

<学会発表>

- ・太田由美、長家智子、村田節子 (2011)「慢性期看護における患者理解を促す教授の方法」、第17回日本看護診断学会.
- ・野口玉枝、村田節子(2010)「造血器腫瘍患者の終末期の時期判断に関する看護師の実態調査ー終末期の判断によるケア態度の違いー」、第15日本緩和医療学会.
- ・大谷まゆみ、瓜生里美、村田節子、中井裕子、八尋陽子、武下宣子 (2010)「頭頸部癌患者の術後の変化に伴う家族の体験」、第15回 日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会.
- ・瓜生里美、大谷まゆみ、村田節子、中井裕子、八尋陽子、中島彩、細川綾那、武下宣子 (2010)「頭頸部癌患者が感じる手術についての主観的な解釈と看護師への評価」、第15回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会.
- ・本田裕美、村田節子、長家智子(2010)「看護過程における目標設定の指導方法に関する検討(1)ー慢性期の事例より」、第16回日本看護診断学会.
- ・村田節子、本田裕美、長家智子(2010)「看護課程における目標設定の指導方法に関する検討(2)ー急性期事例を中心に」、第16回日本看護診断学会.

- ・ 本田裕美、長家智子、村田節子 (2009)「看護学生の思考の特徴から見た強化すべき教授内容—慢性期の事例より—」、第 15 回日本看護診断学会学術集会。
- ・ 村田節子、長家智子、本田裕美 (2009)「アセスメント過程における思考の変化要因と指導の方向性」、第 29 回 日本看護科学学会学術集会。
- ・ Setsuko Murata (2009)「A study on skin damage by chemotherapy in gynecologic cancer」、The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science.

〈その他〉

- ・ 長家智子、村田節子、本田裕美 事例セッション 第 16 回看護診断学会 事例セッションファシリテータ

③過去の主要業績

- ・ 村田節子 「ターミナル期における自己尊重の障害への介入について—子宮頸癌 IIIb 期再発の 47 歳の症例を通して—」、日本看護診断学会学会誌 vol 1.No1、p 66-76、1996.
- ・ 村田節子 「ネパールにおける看護教育とケアシステムの現状と課題」、九州大学医療技術短期大学部紀要第 28 号 p 45-62、2001.
- ・ 村田節子、熊谷秋三、平田伸子、平野祐子 「トイレ弱者の立場からみた公的空間の排泄環境整備と基準化に関する研究」、社会福祉事業助成金「第 34 回三菱財団 事業報告書」三菱財団発行、2002.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金 (基盤 C)『がん化学療法を受ける婦人科がん患者のスキンダメージと QOL に関する研究』120 万円 平成 22~24 年度 単独研究。

5. 所属学会

日本看護診断学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (評議委員)、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本ネパール協会、国際看護研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・2 単位・2 年・前期、成人急性期看護論・2 単位・2 年・後期、成人看護論 IV・1 単位・3 年・通年、成人看護実習・4 単位・3 年・通年、統合実習。

〈大学院〉

成人看護学特論・1 年・通年、成人看護学演習・1 年・通年、がん看護学特論 I・2 単位・1 年・前期、がん看護学特論 II・2 単位・1 年・後期、がん看護学実習 I・4 単位・2 年・前期、がん看護学実習 II・2 単位・2 年・前期、課題研究・4 単位・1-2 年・通年、臨床心理学特論・1 年・後期。

7. 社会貢献

- ・ 九州がんプロフェッショナル養成協議会 福岡県立大学コーディネーター
- ・ 日本オストミー協会社会適応訓練事業相談員
- ・ 福岡県立大学がん看護セミナー企画・主催
- ・ 福岡県立大学がん看護勉強会企画・運営
- ・ 川崎町立病院評価委員会委員

8. 学外講義・講演

- ・ 村田節子 (2011.9.21)「がん医療の中でこれから看護に求められることは?」、第 22 回がん患者 QO 推進事業講習会。
- ・ 村田節子 (2011.5.27)「今求められるナースのお仕事」、第 1 回福岡婦人科がん懇話会。

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員